

令和8年度農林水産省行政事業レビュー公開プロセスの結果  
農村整備事業  
＜取りまとめコメント＞

【論点1 短期アウトカムについては、本事業の中心が単なる農村インフラの新設・更新ではなく、再編・強靱化を意図したものであることを踏まえ、その点を適切に反映した指標の設定や達成状況の評価手法を検討すべきではないか。】

- 天災に対する防災に関して効果があったとする指標や再編によって総額コストが削減できたとするアウトカムを設定することが望ましい。現状では、事業を進行させるだけで短期アウトカムが達成する状況であり、農村インフラを整備することの意義がアウトカムに反映されていないように見受けられる。
- 現在の短期アウトカムは、適切なストックマネジメントや耐災害性が強化された施設の整備完了を示すものにとどまっており、アウトプット指標に相当する。本事業は老朽化した施設の再編・強靱化や維持管理の効率化を目的としているため、災害時の機能停止リスクの低減、耐震化・浸水対策・停電対策の実施状況、施設の統廃合・再編による維持管理費の削減など、整備前後でリスクやコストがどの程度改善したかを把握する必要がある。
- 本事業のロジックモデルを見ると、すべてのアウトカム指標が、100%となっている。これらの指標は、例えば、整備した施設が壊れずに稼働していると目標達成である、という形の指標になっているが、このような指標は、事業マネジメントのための指標として、機能しているとは思えない。こういった指標を設定することに、どこまで意味があるのかが疑問である。
- こういった公共事業は、事業前に、費用便益分析、いわゆるB/Cを計算している。であれば、事前のB/Cと事後のB/Cを比較して、事後B/Cが事前B/Cを極端に下回ることがないようにすることを、指標にするべきである。事後の便益の計算が難しいならば、維持コストをどこまで低減できたのか、または、労働生産性の向上が判定できる指標に変更する必要がある。
- 指標①も②も、整備工事が適切に遂行された、ということを表しているに過ぎない。（再編や国土強靱化を意図するものであるならば、）何を目的として当該整備工事が必要なのか、なぜ当該整備工事を選択したのか、など、（どのような工事が必要なのかを洗い出すこと）に着目した指標にしてはどうか。

【論点2 事業の事前評価を行うに当たっては、人口減少等の社会経済情勢の変化を踏まえた事業計画となっているか確認すべきではないか。また、事後評価についても、その対象外となる総事業費10億円未満の事業が多いため、これらを含めて事業効果の発現などの確認を的確に行う仕組みを検討すべきではないか。】

- 複合的な要因を考慮し、事前評価を行うべきである。当該事業では、農村への人口流入に関する施策は行われず、また、他の農村への事業と併せることで、事業規模を大きくし、事後評価の対象となるようにすることも考えられる。今後、本当に必要な農村の取捨も出てくるのではないか。
- 事業実施の優先度を検討する際には、社会経済情勢の変化を踏まえて事業計画を作成し、費用便益分析に反映することが望まれる。総事業費10億円未満の事業についても、サンプル調査により、維持管理費の削減、施設再編の効果、防災機能の改善、利用実態の変化などを確認するべきである。
- 事後の事業評価は、総事業費10億円以上でなければ対象にならないが、総事業費が小さい事業についても、事後B/Cのサンプル調査を行う必要がある。
- トータルでの効果を検証する仕組みを検討してほしい。

【論点3 長期アウトカムについては、農村の活性化や事業実施地区での定住条件の確保といった本事業の目的を踏まえた指標を設定することで、事業の有効性を的確に検証できるようにすべきではないか。】

- 農村に関するインフラが整っても実際に利用する人口が減少してしまうと意味を持たない。そういった点から、他の事業とも連携をしたうえで、指標を設定すべきである。部署が異なるという説明は受けているが、人口流入の事業等は今回の事業と分離するのではなく一つの事業として見ていくことを想定してもよいのではないか。
- 長期アウトカムについては、農村の活性化や定住条件の確保にどのように寄与したかを検証できる指標を設定すべきである。事業実施地区の農業生産活動や集落活動の継続状況、定住人口・世帯数の維持、生活・営農条件の維持改善などを把握するとともに、住民調査等により、インフラ整備が生活や営農に与えた効果、維持管理上の課題、整備前後の変化を把握し、事業の有効性を検証する必要がある。
- 本事業は、大部分が農業集落排水である。農業集落排水は、利用料で維持管理費を賄うべきだが、それがどこまで実現しているのかを確認しなければならない。ロジックモデルには、長期アウトカムとして、「農村インフラ施設が適切に保全され、機能の持続性が確保される」とあるが、この部分について、利用料で維持管理費がどの程度賄われているかを指標にすることを提案する。
- 「長期」が5年後というのは、施設整備の検証期間としてはあまりに短い。10年後、20年後を見据えた指標を引き続き検討していただきたい。

#### 【その他】

- 農村整備に関する事業のあくまで一部分になるので、評価が非常に難しいと感じた。今後、他の事業との関連も見えるのがよいと感じる。
- 農林水産省の公共事業一般に言えることを、横串を刺す意味で指摘しておく。費用便益分析は、一般に事業期間に加えて40年間の費用と便益を計算するが、便益の計算が、将来にわたって一定になる場合が多い。しかし、農村の場合は、人口減少となる地域が多いことから、将来にわたる便益が一定になるとは考えにくい。したがって、人口動態を踏まえた便益の計算を行う必要があることを、横串を刺す意味で指摘しておく。
- 本件において、インパクトを見越したストーリー性を加味したロジックモデルができないか引き続き検討していただきたい。